

## THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



2022～2023年度 国際ロータリー ジェニファー E. ジョーンズ 会長テーマ

IMAGINE ROTARY イマジン ロータリー

創立 1954年3月8日  
承認 1954年3月30日

例会日時 毎週月曜日  
12:30～13:30  
例会場 刈谷市新栄町3の26  
刈谷商工会議所内  
事務所 TEL <0566>22-2111  
FAX <0566>25-2111  
メール kariyarc@katch.ne.jp  
ホームページ http://www.kariya-rotary.com  
会長 小川 耕示  
幹事 丹羽 克誌  
会報委員長 石川 友美

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

## 第3190回例会プログラム

[当年度=29回目；当月=2週目]

2023年（令和5年）3月13日(月)

〈司会：プログラム委員会〉

- 12:00 〈食 事〉  
12:28 1. チャイム  
12:30 2. 点 鐘……〈会 長〉  
3. 開会宣言  
4. ロータリーソング斉唱……我等の生業  
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介  
6. 会長挨拶並びに会長報告  
7. 幹事報告  
8. 出席報告  
9. 委員会報告  
10. ニコニコボックス報告  
11. 次週並びに次々週のプログラムの予告  
(3/20)……休 会  
(定款第7条第1節 (d))  
(3/27)……  
卓話 「教員不足の現状と本学の取組」  
講師 国立大学法人愛知教育大学  
学長 野田 敦敬 様  
(紹介者 寺田 博正 会員)
2. クラブフォーラム……〈公共イメージ向上委員会〉  
13:00 卓話 「新聞は面白い～業界紙10年、  
経済紙20年の取材活動から～」  
講師 中部経済新聞社刈谷支局  
松田理恵子 様  
(紹介者 野村紀代彦 会員)
12. 謝 辞  
13. 点 鐘……〈会 長〉  
14. 閉会宣言  
13:30 15. 散 会

## 出席

会員総数 96名 出席免除 27名  
出席義務者+免除者の内例会出席者 83名  
欠 席 8名 出席率 90.36%  
前々回(2/27)の修正出席率 100%

## 会長報告

- 3月7日付で西協会員と土屋会員が退会されましたので、会員数を96名と訂正致します。
- 令和5年3月13日より厚生労働省よりマスクの着用についての考え方が示されました。  
それによりますと、「個人の主体的な選択を尊重し、着用は個人の判断に委ねることになります。本人の意思に反してマスクの着脱を強いることがないよう、個人の主体的な判断が尊重されるよう、ご配慮をお願いします。」  
とありますので、マスクの着用については、個人の判断にお任せ致しますが、会員の中には基礎疾患等をお持ちの場合もございますので、ご配慮をお願い致します。
- 「刈谷商工会議所からのお知らせ」  
館内の公衆Wifiシステムを変更し、全館で使用可能になるとともに、「メールアドレス・SNSアカウント認証方式」に変更し、ご利用しやすくなりました。利用方法はロビーに掲示してありますので、ご参照の上、ご活用下さい。

## 会長あいさつ

小川 耕示



本日のマスク着用自由化に先立ち  
中学、高校ではマスク無しでの卒業式  
が行われました。3年ぶりに生徒  
と先生はマスクで顔を隠さずに従来  
の式次第で式を行ったのですが、  
残念ながら歌を歌う時はマスクを  
着用せざるを得ませんでした。また、  
父兄の参加の制限が緩和されたので  
すが、在校生は2年生

のみだった一方、リモートで全校で視聴することができるようになったのはコロナのおかげでしょうか。三年間卒業式に参加できなかった生徒は、蛍の光や仰げば尊しを歌った事も聴いたこともなく、校歌だけ元気よく歌っている感じもありました。卒業式のスタイルもアフターコロナに向けて新しいものに生まれ変わっていく予感のする今年の式でした。

中学の卒業式に参加した時、答辞の中で思いもよらない言葉に出会いました。徳川家康の「最も多くの人間を喜ばせたものが、最も大きく栄える」という言葉です。生徒は、今話題になっている徳川家康の言葉を用いて卒業しても人のために頑張ろうという意味で使ったのですが、この言葉を初めて聞いた私は、アーサー・フレデリック・シェルドンの「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる(He Profits Most Who Serves Best)」と一緒にではないかと思ったわけです。この言葉は1910年のシカゴで開催された第1回ロータリー大会の演説の中で述べられ、翌年、ロータリーの標語として承認されたのですが、1542年生まれの徳川家康がすでに述べていたとは驚きです。

調べてみたのですが、家康がいつ頃、こういった意味で述べられたのかは分かりませんでした。家康の言葉として残されているのは間違いありません。三河のロータリアンとして郷土の英雄がロータリーの理念を述べていたことを誇りに思うと共に、今後、この言葉について調べてみたいと思っていますので、何か情報があれば教えてください。

## 卓 話

### 「新聞は面白い～業界紙10年、 経済紙20年の取材活動から～」

講師 中部経済新聞社刈谷支局  
松田理恵子 様



#### 自己紹介

岡山県出身

英語が得意だったため名古屋外国語大フランス語学科に入学するも、コミュニケーションが苦手だったので会話が上達せず、日本語で身を立てることを考え新聞社に入社しました。

た。

#### 中部経済新聞の特徴

弊社は地元財界などの出資により昭和22年に設立。唯一の経済ブロック紙として、経済ニュースを報道してきました。現在に至るまで、新聞休刊日と日曜日を除く毎日発行しています。また当地域の話題を加えた日刊ゲンダイを発行しています。本社はミットランドのとなり、昔は中経ビルとよばれていましたが、2012年に建て替え、名古屋クロスコートタワーです。本社では広いフロアで経済ニュースを議論する隣で、日刊ゲンダイ記者が地域のポートルースの予想をしているなど、他紙にはない独

特の雰囲気があります。

この他事業部で、名古屋モーターショー、建築総合展、夏山フェスタなどを開催。来月7～9日は常滑市の愛知スカイエキスポで、名古屋モーターサイクルショーを開催します。前回より規模を拡大しており、二輪車ファンの方はぜひ。また、書籍の取り扱いもしています。社史でも多くの実績があり、お手伝いさせて頂いているケースもあります。

当社の社長は常日頃から当新聞を「中部地区の産業界を応援する新聞社である」と明言しています。企業のバッドニュースより、グッドニュースを掲載する傾向にあるのはそのためです。

企業の新商品や新サービス、新たな取り組みについては情報をお寄せください。

私が考える中部経済新聞の最大の特徴は①トヨタの生産計画を掲載している②名古屋市内のホテル稼働率を毎月調査、掲載していることでしょうか。トヨタの生産計画とは、ネタをどう集めているのか。これは代々、本社自動車担当の間でのみ受け継がれており、私もまったく知らないし教えてもらえません。それだけ大事な情報源なのだと思います。トヨタの生産計画など自動車関連企業しか関係ないのではないかと思われる方も思われるかもしれないが、飲食店やコンビニの仕入れなど地域経済のあらゆるところで影響すると言われており、コロナや半導体不足の中、地域の記者として興味深く見えています。ホテルの稼働率もコロナ禍で大きく変化しており、テレビニュースなどでもよく引用されています。

#### 自分なりの取材

卓話の導入のところで、記者の醍醐味はスクープであるとお伝えし、自分自身もスクープのために夜回りをした経験もありますが、悲しいかなスクープを量産してきたわけではなく、そういう意味では新聞記者失格の烙印を押されても仕方ありません。スクープは執念をもって時には嫌われても粘り強く取材したものでしか取れるニュースではありません。子育てしながらの夜討ち朝駆けは、困難だったことも事実です。

だからこそ、自分にしか書けない記事を心掛けてきました。例えば、地域の記者が赴任している地域とゆかりの深い本を紹介する企画です。スクープや企業ニュースが本紙の本流であるなら、こうした読み物の企画は、優先順位が低くなりがちです。刈谷市中央図書館で宮城道雄の最期を描いた「東海道刈谷驛」の本をみつけて感動しました。

他にも私手がけた記事をお手元にお配りしました。「中経手帖」では、刈谷ハイウェイオアシスでの成功例に対比させて西尾のPFIの失敗を書きましたが、これが国会でとりあげられるなど、うれしい報告もきました。

#### 最近の記事から

先ほど中部経済新聞の特徴として、トヨタの生産計画とホテル稼働率と申し上げましたが、もう一つの特徴は三河面だと勝手に思っております。三河面は現在、岡崎の三河支社と豊橋の三遠支局、刈谷支局の3人の記者が

おりますが、個性派ぞろいというか変わり者の集まりです。だからこそ、読み応えのある面白い記事を提供できていると思います。ホームページのアクセスランキングをご覧ください。2位が刈谷で5位が三遠支局の記事です。せっかくなので、最近の記事を紹介させていただきます。新聞記事は生もの。その時々によくの人たちが興味を持っていることにフォーカスする、掘り下げることが重要だと思っております。そういう意味で行くと、今年は春闘が大きな話題になりました。でも実際に中小企業はどうでしょうか。アンケート調査を行っていた新聞社もありましたが、この場合は、普段から取材している企業と、初めて伺う企業から「刈谷市内のある会社から中経なら記事として取り上げてくれるのでは」と紹介頂いたことで取材が実現し、企画記事にできました。これについてもデスクと何度もやり取りし、見出しも変えました。

これは自分の考えですが、刈谷市は読者から注目の高い地域だと思います。自動車産業を引っ張ってきた地域であります。その刈谷から新しい話題を発掘し、紹介していくことが地域活性化につながれば幸いです。

アメリカの社会哲学者、エリック・ホッファーはこんな言葉を残しています。

「人々に交じって生活しながら、しかも孤独である。これが創造にとって最適な状況である」と。私も皆さまと同じ刈谷の地に身を置きつつ、孤独な立ち位置のまま発信を続けていきたい、と。ご清聴ありがとうございました。

